

奈良地方検察庁

検察事務官(立会事務官)

20代 男性/平成31年度 採用



モットー

どんなことでも なんとなかなる

Q.今はどんなお仕事をしていますか？

立会事務官として執務しています。立会事務官は、検察官の補助をするのが仕事で、具体的には、取調べの際に検察官が作成する供述調書のタイピング、事件処理・公判の準備、スケジュール管理、他部署・他機関との連絡・調整などを行っていますが、ただ検察官の補助的業務だけではなく、事件の内容を把握し、自分なりに問題点等を理解した上で、検察官とともに捜査を行っているという意識を持って執務するようにしており、やりがいを感じながら執務しています。

Q.やりがいや達成感があった経験を教えてください。

担当していた事件の被疑者が所在不明になったことがあり、その所在を捜すために、検察官や先輩方とともに捜査を行い、所在捜査の手法などの御指導もいただきながら、なんとか発見し、逮捕できた時はとても達成感を感じました。検察事務官として貴重な経験をできたということもありますが、社会正義の実現を担う検察事務官の役割を強く感じる事ができました。採用されて間もないですが、とても貴重な経験となりました。

Q. 採用される前と後ので検察庁に対するイメージは変わりましたか？

検察庁のことは実はあまり知らなかったのですが、皆さん真面目に仕事されていて少し堅い職場というイメージを持っていました。実際に働いてみて、職員のみなさんが親切で、暖かい雰囲気職場だと感じています。採用された奈良地方検察庁は小規模庁であり、職員間の距離感も近く、顔もすぐに覚えてもらうことができ、違う部署の先輩からも親切にいろいろと教えてもらえますし、風通しのよい、とても仕事のしやすい環境だと感じています。

Q. 高校を卒業し、すぐに採用されて感じたことを教えてください。

採用される前は、大卒の同期とは知識の上で差があるので、ちゃんと仕事をしていけるのか不安がありましたが、採用後に実施された研修では、高卒採用者にも理解しやすいように基本的な知識から習得できるようなカリキュラムが組まれていましたし、職場においても先輩方が丁寧に指導をしてくださったり、わからないことを聞きやすい雰囲気もありますので、今は特に困ったこともなく、わからなかったことやできなかったことを一つ一つ理解・克服できていることに充実感を感じて執務しています。

Q. 公務員を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

僕は、高校卒業してすぐに公務員になりましたが、それは、大学に進学して学びたい事がイメージできなかったからです。それなら、公務員として働き、働きながら必要な知識を身に付けようと考えたからで、家族も賛成して応援してくれました。検察庁では、働きながら法律を学べるという点に魅力を感じ、検察事務官を目指しました。採用の話があった時は、躊躇することなく、奈良地方検察庁で働くことを決めました。

検察庁でしか働いたことがないので他と比較はできませんが、仕事を通じて、自身の成長を感じることができ、土日以外にも年次休暇をとることができるので、趣味の時間を持つこともできます。検察庁は、僕にとって働きやすい職場ですし、公務員を目指す後輩の皆さんに検察事務官を目指すことをオススメすることができます。